

サブロー ゲンタマイシン クロラムフェニコール 2 寒天培地 (SAB GENTA CHL 2-T)

Sabouraud Gentamicin Chloramphenicol 2 agar (SAB GENTA CHL 2-T)

真菌の選択分離

用途

サブロー ゲンタマイシン クロラムフェニコール 2 寒天培地は、混合細菌叢を持つ検体からの酵母及び糸状菌の分離用の推奨選択培地です(1,2)。

原理

ペプトンとブドウ糖の含有によって、酵母の発育を支持します(4)。

ゲンタマイシンの含有によって、ほとんどのグラム陰性および陽性菌の発育を阻害します(6)。

クロラムフェニコールは、ゲンタマイシンに対して耐性を持つ可能性のある種の細菌(連鎖球菌、*Proteus* 属など)のために選択性を向上させます(3,5)。

培地の pH は、細菌の発育よりも酵母の発育を支持する弱酸性になっています。

調整済み培地

REF 42031 試験管培地(斜面)

20 本

組成

精製水中の組成(g/L)

カゼインペプトン(ウシ)	5g
ゼラチンペプトン(ウシまたはブタ)	5g
ブドウ糖	20g
ゲンタマイシン	0.04g
クロラムフェニコール	0.5g
寒天	15g

pH6.1

必要な器材

ふ、卵器

使用上の注意

- *in vitro* 試験のみにおいて使用して下さい。
- 熟練者が使用して下さい。
- 本培地は動物由来の原料を含みます。由来に関する知識、由来動物の衛生状態は感染性のある病原体がないことを保証するものではありません。これらは潜在的に感染の可能性のあるものとして、充分注意の上お取り扱い下さい(摂取または吸入しないで下さい)。
- 全ての検体、微生物培地、そして検体を接種した製品は伝染性であるものとして適切にお取り扱い下さい。試験に用いる細菌グループの無菌操作と通常操作の留意事項は以下のガイドラインに基づきお取り扱い下さい。**安全ガイドライン**： NCCLS M-29A, «Protection of Laboratory Workers from instrument Biohazards and Infectious Disease Transmitted by Blood, Body Fluids, and Tissue, Approved Guideline – Current Revision»
操作留意事項： Biosafety in Microbiological and Biomedical Laboratories – CDC/NIH – Latest edition、または各国の規制ガイドラインに従って下さい。
- 培養した後の培地は材料もしくは構成成分の製造に使用しないで下さい。
- 有効期限を過ぎた試薬は使用しないで下さい。
- コンタミネーションの兆候のある試験管は使用しないで下さい。

- 使用前に、試験管のキャップが損傷していない事を確認して下さい。
- 性能試験は、この添付文書に従った使用方法にて得られた結果を示しています。操作方法を変更すると結果に影響を及ぼすことがあります。
- 試験結果の解釈は、患者背景、検体の由来、コロニー形態および顕微鏡学的形態を含めて考慮して下さい。また必要に応じて、その他の試験方法で結果を確認して下さい。

保管方法

- 箱未開封の状態、2-8°C下で有効期限まで保管可能です。

検体

あらゆる検体を使用することができます。

検体は、寒天培地上に分離し直接接種することができます。

採取や輸送に対しては GLP(Good Laboratory Practices)に準拠し、検体の種別によって適切に処理して下さい。

使用法

1. 培地を室温に戻します。
2. 検体を斜面上に直接接種します。
3. キャップを緩めて、25°Cまたは 37°Cで培養します。
一般的に、酵母の検出のための培養では 48-72 時間後に判定します。
37°Cでの培養の場合には、24 時間後から判定することができます。
糸状真菌の検出のためには、3 日目から発育を観察して下さい。
検体の種類と目的の微生物によって、培養の温度と時間は異なります。使用者の責任の元、現在の規格に従って使用目的のための適切な条件を選択して下さい。

判定

- 培養後、微生物の発育を観察します。
- 分離された微生物の同定は、直接試験(コロニー形態および顕微鏡学的形態)または追加試験(生化学的または免疫学的試験)を用いて実施して下さい。

品質管理

プロトコール:

本培地の栄養要求性は、下記の標準菌株を用いて試験を行いません。

- *Candida albicans* ATCC 10231
- *Escherichia coli* ATCC 25922

精度管理限界値:

使用菌株	20-25°Cでの試験結果
<i>Candida albicans</i> ATCC 10231	3 日以内に発育
<i>Escherichia coli</i> ATCC 25922	3 日以内は発育抑制

注意:

培地の用途を考慮し、適切な規制(頻度、菌株数、培養温度、抗菌薬の選択等)に従って品質管理を実施されることをお勧めします。

留意事項

- 本品は、有効期限内で pH がさがることがあります。この pH 低下は細菌の発育に影響がないことが確認されています。
- 発育の度合いは微生物各個体の要求性に左右されます。従って、特殊な栄養要求性をもつある種の株においては発育しないことがあります。
- 試験結果および目的の微生物によっては、本品と追加培地（非選択サブロー寒天培地等）との併用をお勧めします。

性能

ヒト由来の 145 検体を用いて性能が評価されました。

- 一尿および糞便 24 検体
- 一呼吸器検体（喀痰、生検材料、気管支肺胞洗浄液）73 検体
- 一皮膚および体表面検体（髪、爪、菌）48 検体

検討された性能：

- 糞便および尿：37℃で 1～7 日間培養
 - 呼吸器検体：37℃で 1～7 日間、25℃で 2～10 日間培養
 - 皮膚および体表面検体：25℃で 3～21 日間培養
- サブロー ゲンタイマイシン クロラムフェニコール 2 寒天培地 (SGC2)は、サブロー ゲンタイマイシン クロラムフェニコール 寒天培地 (SGC)と比較されました。

145 検体のうち 102 検体にて、使用された培地 (SGC,SGC2 およびルーチン使用培地*)のいずれか 1 つ以上で陽性と判定されました：

- 酵母様真菌 66 菌株
- 糸状真菌の 55 菌株(糸状菌 42 菌株、皮膚糸状菌 27 株)

*ルーチン培地には、酵素発色培地、アクチジオン酸塩含有の選択培地が含まれます。

最終判定時間における真菌の発育支持能：

酵母様真菌陽性検体数

全ての検体及び培養温度を対象	SGC	SGC2
	57	58

最終判定時間における糸状真菌の発育支持能：

糸状菌及び皮膚糸状菌陽性検体数

全ての検体及び培養温度を対象	SGC	SGC2
糸状菌	25	29
皮膚糸状菌	17	20
糸状真菌の総数	42	49

最終判定時間における色素産生糸状真菌の発育支持能：

文献に記述されている色素産生に一致する糸状菌及び皮膚糸状菌陽性検体数

典型的な形状を示す皮膚糸状菌数 / 発育総数	どちらか一方でも発育	SGC	SGC2
糸状菌			
25℃ (呼吸器検体、皮膚及び体表面検体)	21/25	6/20	21/24
37℃ (呼吸器検体、尿及び糞便検体)	14/19	6/15	13/17
皮膚糸状菌			
25℃ (皮膚及び体表面検体)	15/21	3/17	14/20*

*判定例：SGC2 寒天培地に発育した皮膚糸状菌 20 菌株のうち 14 株が典型的肉眼的な外観を示しました。

最終判定時間における細菌に対する選択性

試験された 145 検体について、SGC2 では 3 件、SGC では 7 件で細菌の発育が観察されました。

廃棄処理

使用済みもしくは使用していない試薬の廃棄は他の汚染した廃棄材料と同様、感染性もしくは感染の危険のある製品の取り扱い方法に従って行って下さい。起こりうる危険を適切に考慮の上、各検査室の責任の元、廃棄産物や流出物はそれぞれの危害毒性や度合いを考慮し、地域の適切な規制に従って廃棄して下さい。

参考文献

- AJELLO L - Cultural methods for human pathogenic fungi - J.Chron. Dis., 1957, vol. 5, p. 545-551.
- BRUN S., BOUCHARA J.P., BOCQUEL A. et al. - Evaluation of five commercial Sabouraud Gentamicin-Chloramphenicol Agar media - Eur. J. Clin. Microbiol. Infect. Dis., 2001, vol. 20, p. 718-723.
- GRILLOT R., LEBEAU B., SELBMANN I. - Isolement et identification des levures : données récentes et perspectives - Rev. Fr. Lab., Oct. 1989, vol. 197, p. 24-32.
- LARONE D.H. - Medically important fungi: a guide to identification - 4eme Ed., Elsevier, 2002.
- LORIAN V. - Antibiotics in laboratory medicine - Willians & Wilkins Ed., Baltimore, 1980.
- MERZ W.G., SANDFORD G., EVANS G.L. - Clinical evaluation of the addition of Gentamicin to commercially prepared mycological media - J. Clin. Microbiol., May 1976, vol. 3, n°5, p. 496-500.

記号

記号	内容
	品番
	製造元
	保管温度
	有効期限
	ロット番号
	使用手順を参照
	試験可能数

(問い合わせ先)

製品関連

ビオメリュー・ジャパン株式会社

臨床(病院、臨床検査センターなど) TEL: 0120-265-034

産業(企業、保健所など) TEL: 0120-022-328

注文・納期・在庫関連

ビオメリュー・ジャパン株式会社

TEL: 03-6834-2666(代表)

*本添付文書は、下記 Web サイトからダウンロードできます。

<http://www.biomerieux-jp.net/>

ビオメリュー・ジャパン株式会社

〒107-0052 東京都港区赤坂二丁目 17 番 7 号赤坂溜池タワー2 階

Tel: 03-6834-2666 / Fax: 03-6834-2667

<http://www.biomerieux.co.jp>



bioMérieux SA

376 Chemin de l'Orme

69280 Marcy-l'Etoile/France

Tel.33(0)4 78 87 20 00 /

Fax33(0)4 78 87 20 90

<http://www.biomerieux.com>



BIOMÉRIEUX